

知事感謝状を受け取った3社の代表者ら＝県議会棟



多胎育児支援に感謝状

県の事業賛同、製品を無償提供

双子や三つ子を育てている県内の全ての家庭に育児に役立つ物品を贈る県の「多胎児家庭サポート事業」に自社製品を無償で提供している企業に向けた感謝状贈呈式が県議会棟であり、県はバローホールディングス(HD)と明治、大王製紙に知事感謝状を贈った。

(古家政徳)

バローHDと明治、大王製紙に贈る

本年度にスタートした事業で、NPO法人ぎふ多胎ネット(多治見市)が各家庭への配布を担う。子どもが3〜4カ月時には大王製紙の紙おむつや明治の液体ミルクなどを、1歳時にはバローHDの食料品や日用品を詰め合わせた「ハッピーバスデーボックス」をプレゼントしている。

県内では毎年、分娩数の約1%に当たる百数十組ほどの多胎児が産声を上げている。7月下旬までにミルクと紙おむつは29世帯、ハッピーバスデーボックスは19世帯に届けられた。

贈呈式には、バローHDサステナビリティ推進室の秋元武室長、明治中部支社営業企画部の科野剛部長、大王製紙可児工場の田坂浩明工場長が出席。村田嘉子県子ども・女性局長が知事感謝状を手渡した。3社を

代表して秋元室長が「子どもは社会の宝。岐阜県がさらに産みやすい、育てやすい街になるようにサポートしていきたい」とあいさつした。

ぎふ多胎ネットの糸魚川誠子理事長は「多胎児の育

児はほとんど寝られないなど過酷。そんな中でプレゼントをもらえることは親御さんにとって大きな励みになる」と感謝した。県は多胎児家庭支援のための物品を提供できる企業を募っている。